

令和8年産 麦作情報 第1号

宮城県亘理農業改良普及センター

令和7年12月23日発行

電話 0223(34)1141 FAX 0223(34)1143

ホームページ <https://www.pref.miyagi.jp/site/wrnk/>



1 麦生育状況

地区名	品種	播種時期	12月15日調査 (12/19実施)		
			草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	
名取市 本郷	シュンライ	11月14日	本年値	6.3	
		条播	平年比	67%	
名取市 下増田	シュンライ	10月30日	本年値	7.7	
		散播	平年比	78%	
平均			本年値	7.0	
平均			平年比	73%	
平均				53%	

※平年比は令和3年～7年産の平均値との比較

播種前後の気象を見ると、気温は、10月下旬は低く、11月上旬は平年並み、下旬は高くなりまし。降水量は10月下旬から11月上旬にかけて多くなりました。

播種時期が例年より遅くなっていることから、草丈、茎数とも平年を下回っています。

なお、越冬前(年内)m²当たりの目標茎数は400～500本/m²です。

2 今後の栽培管理

1) 麦踏み(踏圧)

- 効果：根張りが良くなる。根の浮き上がり防止。分けつ増加。徒長防止など
- 時期：積雪前に麦踏みを1～2回実施しましょう。
茎立ち(主茎の稈長が2cm程度)前までに実施、晩限は3月上旬頃です。
- 注意点：ほ場が湿った状態で行うと土が硬く締まり、根の伸長阻害や排水性悪化の原因となります。ほ場が乾いているときに実施しましょう。

2) 追肥<大麦>

- 根の浮き上がり防止、分けつ増加、徒長防止から追肥後は、麦踏みを行いましょう。

追肥の種類 (生育ステージ)	幼穂形成期 (幼穂長2～3mm) (3月中旬～4月上旬)	減数分裂期 (幼穂長20～30mm) (4月中旬～4月下旬)	穂揃期 (8～9割が出穂)
目的	有効茎歩合の増加 (穂数の確保)	一穂粒数の増加 登熟の向上	—
10月中に 播種したほ場 (生育量が多い)	窒素成分 2～2.5kg/10a (硫安 5～10kg/10a)	窒素成分 2～2.5kg/10a (硫安 5～10kg/10a)	硬質麦 防止のため 実施しない